

1. 指定管理者名	公益財団法人多治見市文化振興事業団(多治見市豊岡町1丁目55番地)
2. 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
3. 業務の範囲	(1)笠原体育館の施設及び設備の維持管理に関すること。 (2)笠原体育館の利用許可に関すること。 (3)利用料金の徴収に関すること。 (4)スポーツ振興事業の実施に関すること。

4. 採点表		評価項目		細目		配点	採点基準		実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)		分析、評価、指示等		得点	昨年
1	運営・利用状況 (40点)	(1)利用状況(10点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	5	平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満～95%:4点、95%未満～85%:3点、85%未満:2～0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用率を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用率の平均値 (2)2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用率の平均値(例:4年目の場合は、1～3年目の平均利用率) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不適当であると判断される場合 他の類似施設における利用率実績に所要の調整をして算出 平均値比(施設全体) 106.0%＝56.2%÷平均値53.0%	5点	平均値比(%)＝(R6年度実績)÷(R3～5年度実績平均値) ・第1競技場 107.5%＝68.8%÷64.0% ・第2競技場 102.0%＝46.7%÷45.8% ・第3競技場 111.8%＝53.0%÷47.4% ・施設全体平均 109.7%＝56.4%÷51.4%	5点	5点				
			②利用人数	5	平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満～95%:4点、95%未満～85%:3点、85%未満:2～0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用人数を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用人数の平均値 (2)2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用人数の平均値(例:4年目の場合は、1～3年目の平均利用人数) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不適当であると判断される場合 他の類似施設における利用人数実績に所要の調整をして算 平均値比(施設全体) 131.3%＝84,461人÷64,322人	5点	平均値比(%)＝(R6年度実績)÷(令和3～5年度実績) ・第1競技場 116.4%＝30,818人÷26,482人 ・第2競技場 133.1%＝18,663人÷14,022人 ・第3競技場 150.0%＝12,101人÷8,071人 ・個人利用 142.5%＝3,397人÷2,384人 ・トレーニング室 145.7%＝19,482人÷13,373人 ・施設全体平均 131.3%＝84,461人÷64,322人	5点	5点				
		(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(15点)		15	仕様書以上:15～12点、仕様書に忠実:11～9点、仕様書の一部不実施(軽微):8～7点、仕様書の一部不実施(中程度):6～3点、それ以下:2～0点	※年次報告書P407～P409参照(事業一覧) (1)トレーニング講習会(132回開催・258人参加) (2)「ミニミニウォーターパーク」の開催をはじめ、複合施設としての相乗効果を発揮するイベントを企画開催。 (3)「バラスポーツフェスタ」や「東海北陸ブロック車いすバスケットボール前期大会」の誘致などバラスポーツの認知度向上や障がいの有無に関わらず誰もが一緒に楽しめるスポーツの普及啓発に繋がる取り組みを実施。	仕様書以上 12点	・笠原交流センターの開館に伴い、複合施設としての相乗効果を発揮すべく工夫を凝らした事業展開がみられる。 ・バラスポーツイベントの開催、大会誘致など、バラスポーツの普及や理解を深める取り組みが実践されている。 ・トレーニング講習会の回数を以前より増やして、より参加しやすい環境を整えている。それにより講習受講者も増加している。	12点	12点				
		(3)自主事業の企画・運営・実施(15点)		15	内容・事業数等が期待以上:15～12点、内容・事業数等が例年通り:11～9点、内容・事業数等が例年よりやや劣る:8～7点、内容・事業数等が例年より劣る:6～3点、内容・事業数等が例年よりかなり劣る 2～0点	※年次報告書P410～P413参照 ＜利用促進事業＞ (1)トレーニング室利用促進キャンペーン お盆期間中のトレーニング室利用者に交流センター内に新たにオープンしたカフェのドリンク無料券を進呈するキャンペーンを実施。 ＜スポーツ教室＞ (1)個人・少人数指導型教室(鉄棒・跳び箱の日・全12回・259人参加) (2)自由参加型スポーツ事業(卓球の日・全12回・357人参加) (3)ボウリング教室、筋力アップ体操、プロチームによる卓球教室、バレーボール教室等	期待以上 12点	・民間事業者との連携や、トップアスリートを招いての教室開催など、幅広いジャンルのスポーツイベントに取り組んでいる。 ・市内公民館、交流センターの指定管理者である同財団ならではの取り組みとして、卓球交流大会を開催するなど、団体としての特色を活かし連携することで、地域の方々が楽しみながら参加できる環境を作り出している。	12点	12点				
	(1)施設管理業務の実施状況(10点)	①清掃	10	①チェック細目の丸数字の各項目を3段階評価する (適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。 ※駐車場は、期待以上:8点、適正(普通):6点、一部不備あり:4点、不備あり2点	・報告書P394(笠原交流センター 清掃業務)参照 施設・トイレ清掃/毎日、ガラス・窓枠清掃/年1回、床洗浄・ワックス仕上げ/年1回	適正(普通) 2点	適正に実施されている	10点	10点					
		②保守・点検			・報告書P395(笠原交流センター 保守・点検)・P414(保守・点検)参照 トレーニング機器保守点検/機器動作:毎日、総合:年2回	適正(普通) 2点	適正に実施されている							
		③保安・警備			・報告書P395(笠原交流センター 保安・警備) 常駐警備/開館日、機械警備/夜間・休館日	適正(普通) 2点	適正に実施されている							
		④小規模修繕			・報告書P414(小規模修繕) 計14件 842,543円	適正(普通) 2点	適正に実施されている							
		⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)			・報告書P415(危険箇所の把握) ・毎朝開館前に館内点検を実施し、朝礼時及び都度連絡、毎月の課内会議で情報共有。 ・建物全体及び敷地内は公民館と情報を共有し、迅速に対応。 ・利用報告書、利用者とのコミュニケーションの中から不具合箇所等を把握し、出来る限り予防保全対応。 ・大規模修繕に係る修繕箇所は、定期点検チェックシート、建物修繕箇所調査票で状況を記録し、市へ報告。 ・館内のスポーツ器具は定期的に安全チェック表に基づいた点検を行い、不具合のあるものは出来る限り速やかに修理、入れ替えを実施。	適正(普通) 2点	適正に実施されている							

評価項目		細目	配点	採点基準		実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)		分析、評価、指示等		得点	昨年
2	施設管理状況 (25点)	(2)その他管理業務の実施状況(15点)	①文書管理	15	①チェック細目の丸数字の各項目を4段階評価する(期待以上:3点、適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。	・ファイリングによる文書管理を徹底している。 ・個人情報の収集は最小限に努めている。 ・パソコンの画面は利用者から見えないように配慮。	適正(普通) 2点	適正に実施されている	14点	14点	
			②環境への配慮			・更衣室シャワーは節水コマを使用。 ・地域の資源回収に協力。個人情報のない古紙は資源として分別。 ・書類等は可能なものはデジタルデータのみとして紙使用の削減に取り組んでいる。	期待以上 3点	適正に実施されている			
			③バリアフリー			・入口や通路は、動線を妨げないよう配慮。 ・外国人利用者の増加に対応するため、利用案内等の英語併記を実施。 ・第1競技場に車椅子で来館された方には、急な階段がなく入室が困難な為、公民館内のエレベーターを使い、交流センター職員の協力を得ながら会場へご案内しています。必要に応じてスタッフが付き添っての誘導、車いす利用者の担ぎ上げなどの対応も行っている。 ・2階の第1競技場へ車いすを設置。	期待以上 3点	適正かつ期待以上に管理されている			
			④備品管理			・競技別のネット支柱(ソフトバレー、バドミントン、インディアカ等 計18セット)を従来の競技別のものから多目的支柱(6セット)として更新。数量を減らし、管理のしやすさに配慮した。 ・卓球、バドミントン、バスケットボール、テニスなどのネットの消耗が激しい備品についてはスベアを常時ストックし、傷みが目立った時に速やかに交換。 ・多治見市備品の軽スポーツ道具の管理は、貸出前後にチェックをして不具合を見つけた場合は文化スポーツ課へ連絡、更新や修理を依頼。 ・バスケットゴール、トレーニング室機器は専門業者による定期点検を実施。 ・スタッフによる日常点検だけでなく、お客様との日常のコミュニケーションの中から不具合等の聞き取りをおこない、必要な場合は迅速に修繕等の対応をしている。	期待以上 3点	適正かつ期待以上に管理されている			
			⑤個人情報保護			・名簿等個人情報の収集は最小限にとどめ、キャビネット内で適正に保管 ・事業での記録撮影及び利用許諾はあらかじめ参加者の同意を得ている。 ・トレーニング室利用者カードをバーコード式に変更し、入場時の情報等記入を無くすことでプライバシーに配慮している。	期待以上 3点	適正に管理されている			
			⑥事故等への対応	0	事故等への対応は減点対象とする(事故なし及び事故等の対応に不備なし:0点、事故等対応に不備あり:△1点)	・競技中の負傷事故等について、救急要請、保険対応など適切に対応した。 ・施設利用者が心肺停止となる事案発生。適切な処置・救急要請により無事回復。 ・擦過傷等の対応、体調不良者の対応等、随時適切に対処。	事故なし・対応に不備なし 0点	適正に管理されている ・事故等に対し、適切な対応がなされている。特に心肺停止の利用者への対応は迅速、的確で特筆すべき対応だった。	0点	0点	
3	当該施設の経営状況 (5点)	①事業収支	5	当該年度の収入÷支出が、105%以上:5点、105%未満～100%:4点、100%未満:3点 ※100%未満がコロナの影響によるものと認められる場合は一律4点とする。	【収入】123,773,180円÷【支出】125,132,711円＝98% ※笠原地区文化体育施設として	100%未満:3点		3点	4点		
4	より良い施設運営のための取組 (30点)	(1)市民・利用者の声の反映 (15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10	期待以上:10～8点、適正(普通):7～5点、不備あり:4～1点	報告書P417参照 ・笠原交流センターのオープンに伴い、複合施設としての連携を意識して運営に取り組んでいる。公民館、児童館との連携事業や、児童館乳幼児クラブへの講師派遣など、新たな取り組みがみられる。 ・隣接する笠原保育園の改修工事に関連して、運動会を体育館で開催するなど、施設環境の変化に柔軟に対応している。 ・衆議院議員選挙において、初めて開票所として対応するなど市事業へも積極的に協力している。	期待以上 9点	・利用者からの要望に対し、迅速かつ適切に対応できている。 ・利用者のニーズ把握に努め、スポーツや運動が実施しやすい環境整備について、具体的に計画し実施されている。	9点	9点	
			②苦情対応	5	期待以上:5点、適正(普通):4点、不備あり:3～1点 ※苦情なしは4点とする	・利用者からの要望や苦情には、都度速やかに対応を行っている。 ・利用者同士のマナー・モラルに起因する苦情についても、丁寧に対応している。	期待以上 5点	・状況の把握を適切に行い、迅速に対応できている。	5点	5点	
		(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿勢、上記1～3の評価に反映されないその他の成果ポイント(15点)		15	提案、姿勢、その他の成果ポイント(アピール)が期待以上:15～12点、適正(普通):11～9点、普通未満～物足りない:8～0点	報告書P416、419参照 ・施設利用者が心肺停止となった事案が発生。迅速かつ適切な救命措置と救急要請により、対象者は無事回復。後に社会復帰を果たした。	期待以上 14点	・日頃からの訓練の成果が発揮された事例。また、その後も消防と連携し緊急時対応の確認を行うなど、高い危機管理意識が窺える。	14点	13点	
5	その他 (減点方式)	(1)報告書類の提出状況	0	提出書類の遅れ・不備に応じて減点対象とする(遅れ・不備内容の程度により△1～△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅れ・不備あり(それ以下):△3	提出書類に遅れなく、内容についても適切である	遅れ・不備なし 減点なし	適正に実施されている	0点	0点		
		(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以外)等	0	指示への対応等に応じて減点対象とする(対応等の内容により△1～△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり:減点なし、対応等が期待以下(軽微):△1、対応等が期待以下(中程度):△2、対応等が期待以下(それ以下):△3	指示等特になし	指示等なし・対応等が期待どおり 減点なし		0点	0点		
合計			100	【4段階評価】 極めて良好 100～85点 良好 84～65点 努力が必要 64～45点 取消し等を検討 44点以下					合計89点	89点	
								【全体的な評価】 ・笠原交流センターの開館に伴い、複合施設としての相乗効果を発揮するイベントの企画開催など、施設の特徴を活かした運営に取り組んでいる。 ・トレーニング室利用者を増やすために、新たに開店したカフェとの連携企画を実施する等、工夫を凝らしている。 ・日頃から緊急時の対応を訓練しており、実際に発生した救命事案に適切に対処し、人命救助に貢献した。	極めて良好		